

花き類INSVを媒介するアザミウマ種の特異性と地域変異

地域基盤研究部 害虫生態研究室 019-643-3466



研究のねらい

施設栽培の花き類に大きな被害をもたらすインパチエンスネクロチックスポットウイルス(INSV)は、最近国内に侵入し、その分布域を急速に拡大しつつある。このウイルスによる被害を未然に防ぐには、媒介者の除去が効果的であるため、国内におけるINSVの主要媒介アザミウマ種を特定するとともに、その媒介能力の地域変異を検討する。

研究の成果

INSVの媒介種は、ミカンキイロアザミウマ及びヒラズハナアザミウマであり、ダイズウスイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマは非媒介種である(図1)。ヒラズハナアザミウマは、INSVの媒介種として初確認された種である。しかしながら、従来非媒介種と見なされていたようにその媒介能力は低い(図1)。

ミカンキイロアザミウマのトマト黄化えそウイルス(TSWV)媒介率には地域変異が存在するが、INSVの媒介率はどの地域においても極めて高い(図2)。したがって、国内の施設栽培におけるこの種の多発生を考慮すると、本種が国内におけるINSVの主要媒介種と考えられる。

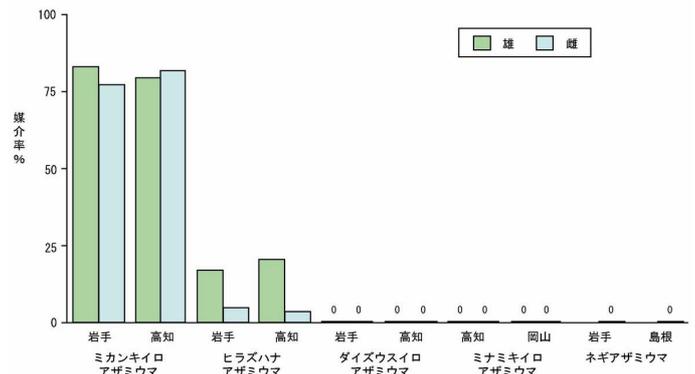


図1 アザミウマ5種間のINSV媒介能力の違い (各種2個体群ずつ調査)

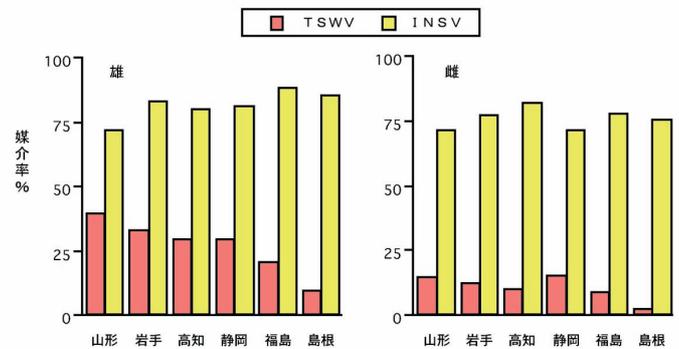


図2 ミカンキイロアザミウマのTSWV及びINSV媒介能力における個体群間差

研究の利活用

INSVによる被害は施設栽培の花き類(インパチエンス、ニューギニアインパチエンス、プリムラ、シクラメン、シネリリア、ダリア、トルコギキョウ、エキザカム、バーベナ、グロキシニア、ペゴニア等)で主に生じるため、施設内へのミカンキイロアザミウマの侵入及びウイルス感染苗の持ち込みをできるかぎり阻止する。

ミカンキイロアザミウマは花粉を摂食すると爆発的に増殖するため、施設及びその周辺に不要な花を栽培しない。